



第9回交流会「恒例、鳥いっぱい谷と海」

2018年2月4日(日)

講師:別府史朗氏

参加者:★早朝谷あるきコース6名、★のんびり漁港 コース18名

7時前に漁港に車を止め、身支度を整え森へ。水道広場集合は8:00ですが、下見を兼ねて鳥を見ながら森を抜けて集合場所まで行きました。無風で小網代湾は波も無く静かでしたが、何時も見られるトビやマガモなど鳥の姿が水上にも空にも全くありませんでした。さらに、宮前の峠を抜けエノキテラス、ヤナギテラスへと歩を進めるが全く鳥の姿も気配も無く、今日の探鳥会が心配になってきましたが、ヤナギテラスを過ぎたあたり7時20分ごろにやっとガビチョウが鳴き始め、枯れたアシやオギの中でウグイスやアオジが動き始め一安心。

真ん中広場に差し掛かるころ、右手の立木から1羽の鳥が飛び立ちその向こうの木に移動。あまり見かけない白い色が目立つ飛ぶ姿に双眼鏡で確認すると、木の幹を動く赤い色が目に飛び込んできた。赤い色、背中の白い八の字、アカゲラです。急いでカメラを出しシャッターを切った。5回シャッターを切ったところで姿を見失ってしまった。写真はそのうちの1枚です。私は小網代の森でアカゲラを見たのは初めてで、小網代の森での記録はあまりないと思います。出会った幸運を感謝、感謝です。集合時間も迫ってきたので急ぎ足で水道広場に移動。途中ではモズやメジロを確認。

7時50分、少し息も切れたがまだ誰もいない水道広場に到着。8時にMさんが到着されヤマシギがいたとのこと、時間外でしたが珍しい鳥が2種(ヤマシギ、アカゲラ)記録となりました。

(文・写真 別府史朗氏)



モズ



アカゲラ

小網代の森にアカゲラがいた！

早起きして朝8時に水道広場に集まった私たちはまず別府さんのカメラのディスプレイを覗き込み、大興奮！

「うわぁ、アカゲラだ！」

もしかしたら会えるかしら、と期待を抱きながら木々の間に目をこらしつつ、歩を進める。



朝の空気は冷たく、森に差し込む光の向きがいつもと違って、神聖な気分。

鳥の声がにぎやか。タイワンリスの声も。ときおり、「ドドドド」と木をたたく音。

「あれはアオゲラのドラミングですね。」と教えてもらう。コゲラとは迫力が違う。

真ん中湿地まで来たものの、さすがにアカゲラはいませんでした。でもちょっと前までいたかと思うと格別の感があります。しばらく余韻を楽しみました。

いつか会えるかなあ♡



森の植物はすっかり冬枯れしていますが、足元にフキノトウを見つけたり、なんとなく地面から湧き上がってくる春のエネルギーを感じます。下流のアシ原は刈り込まれてスッキリ。モズやタカ類は狩りがしやすくなり、アオジやスズメも餌を探しやすくなったかもしれませんね。でも隠れる場所がなくなって、困ってはいないかしら。鳥たちはどういうふうに思っているのでしょうか。



イギリス海岸に出てみると、

あれ、海には鳥一羽もない！

いつもはカモの類やサギの類がいくらかはいるのに、今日はみんなどこ行っちゃったの？

ミサゴはさっき森の中で上流方向へ飛んでいくところを見かけたから、おでかけ中。

あらら、ゆっくりしていたら、漁港コースとの合流時間に間に合わない、急いで白髭へ向かう。途中、公衆トイレがかなり出来上がっていました。3月末には完成するらしいです。



情報コーナー（神奈川県HPより）くわしくは <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/p1218966.html> をご覧ください。
小網代の森からシャトルワゴンを運行中！11月25日までのうち、土日および祝日（但し4/28-5/5、7/28-8/31除く）1日5本（11:00 11:30 12:00 12:30 13:00）、無料のシャトルワゴン（定員9名）を運行しています。
宮ノ前峠入口さき（白髭神社付近）⇒ ホテル京急油壺観潮荘 ⇒ 京急油壺マリンパーク



三崎口駅で10時に待ち合わせをした皆さんは路線バスを使って、漁港へ。先に到着し、**ペルルカフェ**で**ソフトクリーム**を食べながら待っていてくださった方も。 全員無事合流。

別府さんからアカゲラのお話と、早朝コースの様子、観察の留意事項などを聞きました。先日の野内眞理子植物画展でお誘いして、初めて小網代を訪れた方もいらして、わくわく感が伝わってきます。

まずは漁港で観察。目をこらすもなかなか見つかりません。やっとのことで頭上を飛んでいくカモメと、対岸の茂みにとまっているアオサギを確認。



おだやかな湾奥の水面にオオバン2羽。

仲の良いご夫婦のようです。

地元の方が湾沿いに植えられたサクラの木が随分大きくなりました。今年は咲くでしょうか。

そろそろお昼にしようと、えのきテラスに向かう途中、ふと上を見上げると、ノスリが湿原の上を飛んでいく！みんなでわいわいお昼のあと、谷をのぼりはじめると、視野の中に鋭い影が――

「あっ、見た！？今の、タカ！？」

「見た見た！」「翼が短かったよ」「三角だった」

「えー、見えなかった(T_T)」「また来ないかなあ」

地味な鳥たちには悪いけど、タカにはやっぱり興奮。



真ん中湿地のホタルの観察ポイントの手すりは、鳥見をするのに絶好ですね。ぽかぽかとした日差しの中、じっくりと、久しぶりに双眼鏡の練習にもなりました。日当りの良い斜面では、気の早いタチツボスミレも咲きだしていましたよ。

それぞれのペースでク

スノキ坂をのぼり、最後に水道広場で鳥合わせをしました。さて、今日は何種類の鳥に出会えたでしょうか？

(答えは次ページ)

別府さん、鳥に詳しい会員Mさんのおかげです。ありがとうございました。

(文・写真 浪本)



探鳥記録

2018年2月4日(日)

アカゲラ	カモメ (?種類不明)	スズメ	ヒヨドリ
アオゲラ	キジバト	チョウゲンボウ (?)	ホオジロ
アオジ	コゲラ	ツグミ	ミサゴ
アカハラ	コサギ	トビ	ムクドリ
ウグイス	コジュケイ	ノスリ	メジロ
エナガ	シジュウカラ	ハイタカ (?)	モズ
オオバン	シメ	ハシブトガラス	ヤマガラ
ガビチョウ	ジョウビタキ	ハシボソガラス	ヤマシギ

計29種 (種を確定できないものを除く、鳴き声での確認も含む)



講師の別府史朗さん プロフィール

スタッフとして小網代の森に関わるほか、横須賀市の光の丘水辺公園で友の会会長として大活躍されています。日本野鳥の会神奈川支部。

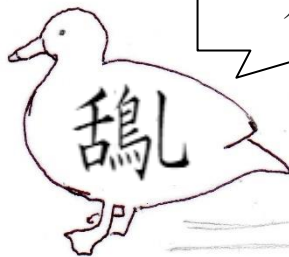
●●● 鳥の漢字 またつくっちゃいました ●●●

新婚の間は
2DK くらいかな?



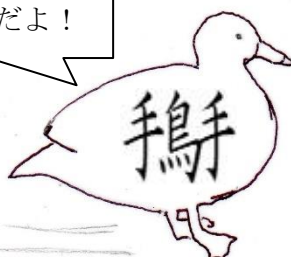
ㄍㄨㄢ

え～! うそ～!
結婚しちゃうの～?
バタバタッ



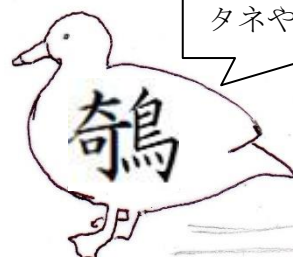
ㄍㄨ

私のお肉よ、
取らないで!
ちがう僕のだよ!



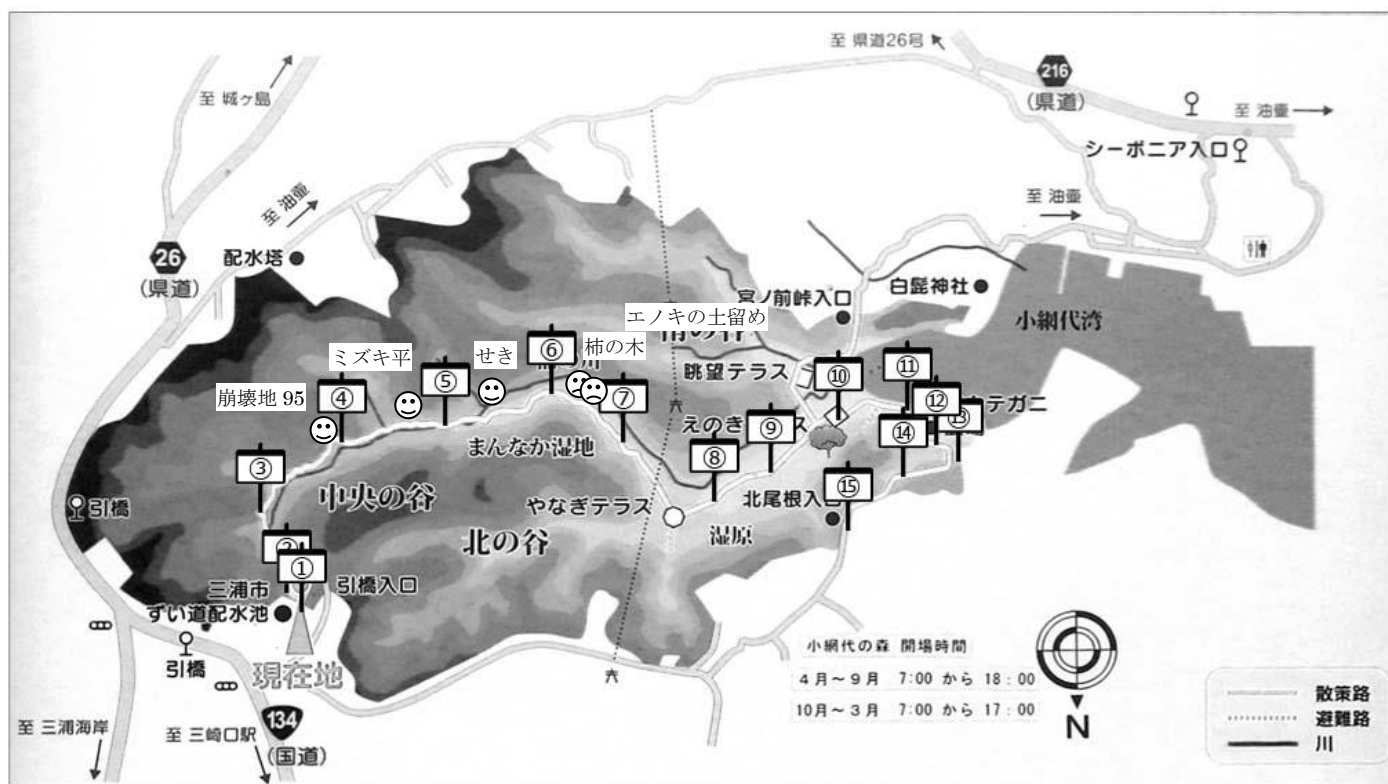
ㄟㄣ

お肉を増やすよ
チチンパイ ☆
タネやシカケのこと



>ㄣ

● 森の地図（丸数字は動画の始まり地点です）



VTR 撮影：高橋伸和

ホタルカズラ(蛍葛) 2011 年 4 月



ホタルカズラ

青い花は いく種類かある

彼女は 青い花が好きだった

ことに 木陰で揺れるこの花が

画 野内真理子
詩 中井由実

小網代を詩う

春が待っていた

中井 由実

長い長い冬

冷たく 寒かった冬

皆 首を縮めて歩いていった

いつ？

雪が消えて 水面の氷が解けて

地面に張り付いていた小さな葉が

緑色の鮮やかさを増していくのは

木漏れ日の中

紫色の花がかがやくのは

いつから？

風が穏やかに

空が明るい

春が

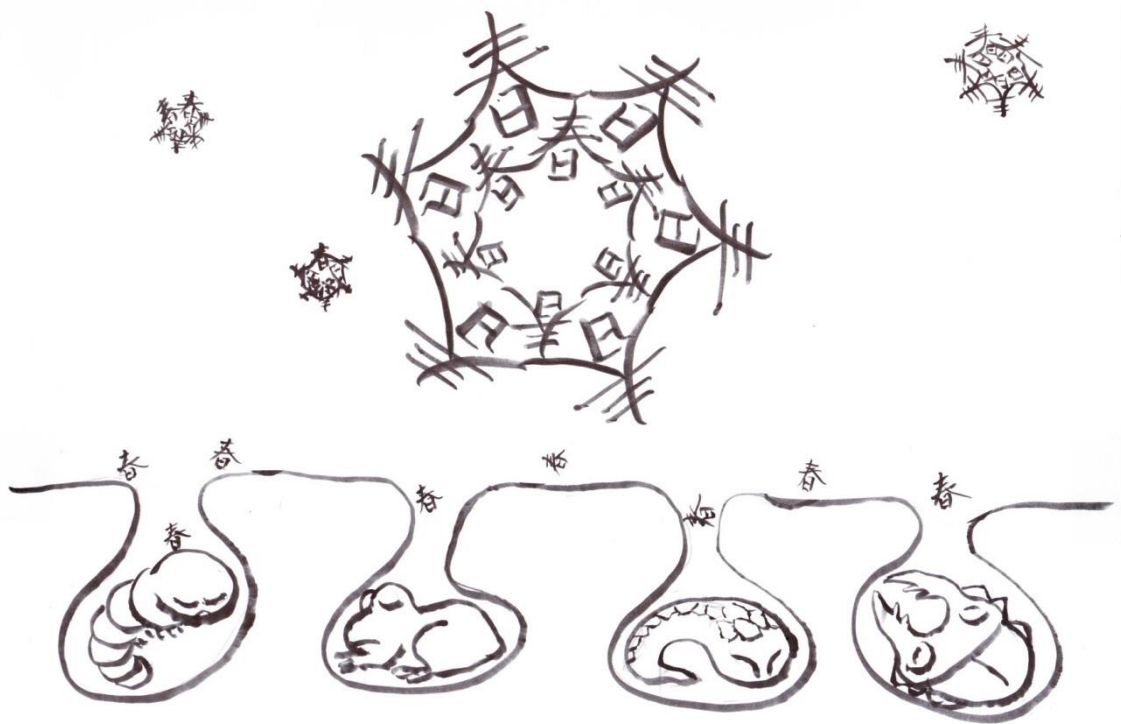
待っていた

小網代に行けるのを

待ちきれなかった分 勢いよく

森のすみずみまで

固くなった土の中深くまで浸みこんでいく



サロン小網代 随想

随想 小網代でんてん ③⑩

マテバシイ…の謎

須田漢一

明るい三戸台地の畑を通り、北の尾根に入ると、そこはマテバシイの林。

足元にはドングリが多くさん散らばっている。外皮を脱いでお椀をつけたもの、砲弾形のもの、小枝のついたものなど、どれも大きい。

マテバシイは房総半島から西日本にかけて分布する常緑の広葉樹で、15メートルほどの高木になり、豊富な実をつける。

春から夏にかかろうという六月頃から、あちらこちらの尾根から谷にかけて、樹冠が盛り上がるように茂り、群がったうす黄色の花(雄花)が咲く。それは森の樹相に明るい変化を添え、豊かな印象を与えてくれる。と同時に、なぜ多くさんのマテバシイが、ここにあるのだろうか、このような巨木になったら表土が支えきれないのではないか、とも思う。

マテバシイの果実は二年かけて成熟し、翌年の十月頃、成長したドングリが、浅いお椀(殻斗)へ無理に乗っかっているような姿で落ちてく

る。ブナ科のほとんどの果実は一年で熟す。それが温帯に属している植物の、短い夏の生育期間に適応した生き方であり、危険が少なく有利だからでもある。だから大きな実をつくるマテバシイは、成熟に二年をかけるのだろうか。

日常の食事にドングリを使った歴史をもった地域は、世界の温帯地方——日本、朝鮮半島を含む東アジアから、アフガニスタン、イラン高原を経て地中海沿岸にまで広がっている重要な食物だった。しかし、人の利用したドングリのほとんどは、苦味や渋みがあり、水晒しや煮沸などのアク抜きをしないと、食べられない。その点、サツマジイと呼ばれるマテバシイは、アク抜き無しで、そのまま食べられた。ここで不思議なのは、房総半島からは食糧として利用した跡があるのに、三浦半島の縄文時代の遺跡からは、マテバシイは出土しなかった。…なぜだろう。

そのわけは、現在、三浦半島の主な山地で優先種となっているマテバシイは、自然のものではなく、逸出種だといわれる。一見、自然に生えたように見えるものも、縄文時代以降に、何らかの目的で人が植えたものと思われる。生長し

たドングリは鳥や動物によって運ばれる途中で落ちたものがその地に芽生え、増えていく。

縄文から古代には主食として、その材は器具、建築材として利用され、戦後は薪炭材として盛んに切られたマテバシイ。今、ドングリも、その材も、身のまわりから忘れ去られている。都市のなかでは公園樹や街路樹として植えられ、枝をひろげると切られ、ドングリはコンクリートの上に落ちている。そして、日に晒されたまま転がり、靴底で踏まれ、車輪につぶされている。

シイともカシとも呼ばれ、大切にされた時代は、足早に去っていった。現在、人とかかわりあいが、わずかに残っているマテバシイは、何か謎めいた木であり、季節、季節、いつも気になる樹木である。

——転がっているマテバシイの殻を破って、その実を食べてみた。スタジイほど甘くはない、味のない味だった。

2016. 3

須田さんが新著を出版されました。「随想集 三浦半島 森と海辺と大地から」

小網代の森、光の丘水辺公園の自然観察会に長年足しげく通い、みつめ、綴った多面的な三浦半島の魅力。(帯より)

かまくら春秋社 2018年1月5日 定価：1,500円＋税

サロン小網代 横須賀市秋谷の子産石

2018.3.8 祖父川精治

三浦半島の西海岸、横須賀市秋谷海岸周辺の海底や山間部から、世にも珍しい球形状の石が次々と発見されている。大きさは、サッカーボールや野球ボールほどの丸い石で、最大のものは直径1メートル級も出土している。波浪で洗われた玉石と異なり球形の石である。

岩盤から産出するので、昔から子産石「こうみいし」と呼ばれている。沿岸の漁師の人たちによると、海底には丸石がゴロゴロしているが重たいので持ち運びは無理だという。調べてみると、三浦半島各地



御霊神社の袂石と手玉石

から発見されている縄文、弥生、古墳各時代の遺跡からも子産石が発見されている。古代人たちは、この丸石に自然の靈気を感じ住居内へ持ち込んだものと思われる。

三浦半島や鎌倉市内の有名寺院神社、旧家の門前や路傍の祠の脇に子産石がそっと並べ置かれているのを見ている。江ノ電長谷駅近く、御霊神社（権五郎神社）の本殿脇の柵内に子産石が2個も安置してある。由緒を書いた案内板があり、それによると手玉石と袂石とあり重量、16貫（60キロ）28貫（105キロ）。見かけよりも実に重量がある。近くの

極楽寺切通し坂上の「あじさい寺」として有名な成就院境内にも子産石が2個も並べて置いてあった。

葉山町の総鎮守である森戸大明神、その境内社には安産子宝の神として水天宮が安置してある。「まいられよ子宝の福授かりに」と古くから篤い信仰がある。触れると子が授かるという靈験あらたかな子宝石といわれる、小さな子産石が小社の中に幾つも重ねて積んである。

久留和漁港近く「子産石」という京急バス停前に、直径1メートル級の大きな子産石が置いてある。白い文字版と並んで横須賀市市民文化遺産の標識がある。「この地海浜の岩より石を産す、子産石と」とあり、石中から石を産むというのである。

秋谷海岸の名所、海中に高さ12メートルの立石。近くに立石不動尊入口の石碑がある。明るい谷川の奥には、三浦半島では珍しい高さ10メートル級の滝が懸っている。

また、浄楽寺バス停から山側へ入った所に和田義盛が文治5年（1189）に建立と伝えられる浄土宗金剛山勝長壽院大御堂・浄楽寺がある。鎌倉時代最高の仏師である運慶作の重要文化財の仏像5体が収蔵庫に秘蔵され年1回一般に公開されている。昨年、東京国立博物館の運慶展へ展示された。広い境内には、明治時代に近代郵便事業の創始者である前島密夫妻の墓がある。

全世界的に資料を調べてみると、ニュージーランド南島のモエラキと呼ぶ東海岸のモエラキボルダー。巨大な卵のような直径1メートル、重量2トン級の丸石が100個位もゴロゴロしている。海中の鉱物の結晶が均等に付着し約6000万年もの時間をかけて丸く凝固していった。かつて海底にあったものが次第に隆起し、海岸周辺に姿を現したものである。

ネットで画像が見られます。



京急バス「子産石」バス停前の子産石

<https://www.cocoyoko.net/spot/koumi-stone.html> 横須賀観光情報「ここはヨコスカ」

https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/0130/g_info/1100004030.html 横須賀市ホームページ

これはほんの一例、この他にもいろいろと掲載されています。

こあじろの森くらぶ NEWS

スタッフの活動

- 2018.01.28(日) こあじろの森くらぶ通信 No.10 印刷発送
通信作業終了後スタッフ会議
- 2018.02.04(日) 第9回交流会「恒例、鳥いっばいの谷と海」
- 2018.02.11(日) スタッフミーティング(国立科学博物館)
- 2018.03.11(日) スタッフミーティング(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)



野内真理子さん植物画展
の収益2万円をかながわ
トラストみどり財団に
寄付し、登録証書を
いただきました。

こあじろの森くらぶ 4月の催事お知らせ

「こあじろの森くらぶ」会員とそこご家族、ご友人をお誘いするイベントのお知らせです。
保険はありませんので自己責任でのご参加をお願いしています。

光の丘水辺公園遠足

春の妖精ニリンソウを訪ねて

開催日:2018年4月8日(日) *荒天の場合は中止します

集合・解散:YRP野比駅前 10時集合 光の丘水辺公園の動植物を観察後 12時頃流れ解散。

持ち物:お弁当、飲み物(あれば双眼鏡、図鑑など)

* 光の丘水辺公園、ニリンソウの公開期間は4月7日(土)~4月15日(日)、10:00~15:00で見ることができます。

第10回交流会

地衣類って何だ?

コケ類によく似た姿かたち、その上名前も〇〇ゴケというのが多い。ところが全く異なる種類ってどういうこと?
植物ではなくもちろん動物でもない「地衣類」、国立科学博物館ボランティアで会員の芥川仁美さんのご案内で
身近にいる不思議な生き物にびっくりしてみませんか。

開催日:2018年4月29日(日) *荒天の場合は中止します

お待ち合わせ: 10:00 三崎口駅前 14:30 頃散会

持ち物:お弁当、飲み物(あれば虫眼鏡、図鑑など)

*虫眼鏡はくらの備品を用意しますが、全員に行き渡らない場合もあることをご承知ください。

加藤利彦さんの写真とトークを楽しむ会

日本の風景と生きもの

第10回交流会の終了後ひげ爺の栖へ移動して、加藤さんが日本全国をまたにかけて撮影された風景と生きものの写真を拝見しながら撮影秘話などをお聞きしたいと思います。トークの会のみのご参加も可能です、
どうぞお楽しみに。(15時頃から1時間半程度、茶菓は実費をご負担ください)

加藤利彦さん プロフィール

こあじろの森くらぶが「小網代の森を守る会」だった時代から、森のカメラマンとして知られていました。CD 写真集など会にも数多の写真を提供していただいています。長年郵便のお仕事の傍ら写真家としての活動を続けて来られましたが、現在はプロの写真家として活躍されています。

こあじろの森くらぶ通信 No.11

2018年3月25日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地:〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先: info@mori-club.com (高橋)

046-889-0067 (仲澤)

URL : http://www.mori-club.com

年会費:1000円(7月~6月 入会金不要)

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203